

CÁCH GỌI ĐỐI NGÔI TRONG TIẾNG NHẬT VÀ TIẾNG VIỆT QUA NGÔN NGỮ GIAO TIẾP CỦA GIỚI TRẺ

VŨ MINH HIỀN*

Trong tiếng Nhật và tiếng Việt có nhiều cách khác nhau để gọi người đối thoại, ví dụ cách gọi bằng tên, gọi bằng đại từ nhân xưng, gọi bằng tên chức vụ, nghề nghiệp. Ngoài ra còn có một cách gọi khác đó là cách gọi đối ngôi. Gọi đối ngôi là cách gọi sử dụng danh từ thân tộc để gọi những người không có quan hệ họ hàng, hoặc mượn cách gọi của người có vai vế thấp nhất trong gia đình để gọi những người thân khác. Tiếng Nhật và tiếng Việt đều có cách gọi đối ngôi này, tuy nhiên qua khảo sát thực tế, chúng tôi thấy có nhiều điểm khác biệt trong cách gọi, đặc biệt là trong ngôn ngữ của giới trẻ. Đối với người ngoài gia đình, người Nhật Bản có xu hướng sử dụng những từ như “sumimasen” “ano”... để thu hút sự chú ý của người tham gia đối thoại mà không sử dụng cách gọi đối ngôi. Ngược lại, trong giao tiếp, người Việt Nam sử dụng rộng rãi cách gọi đối ngôi để hô gọi và dường như cách gọi này có xu hướng lấn át các cách gọi khác. Khảo sát thực tế việc sử dụng cách gọi đối ngôi đối với những người không có quan hệ họ hàng như hàng xóm, người lạ... giúp chúng ta hiểu được sự tương đồng và khác biệt trong cách sử dụng ngôn ngữ cũng như trong văn hóa giao tiếp của mỗi dân tộc, từ đó ứng dụng vào việc học tập, giảng dạy tiếng Nhật và tiếng Việt.

日本語とベトナム語における虚構的な「呼びかけ」について

—若者の「呼びかけ」を中心として—

1. はじめに

日本語の教科書で取り上げられている自分を指す言葉や相手を指す言葉は「わたし」、「あなた」、「君」などの人称代名詞、「お父さん」、「お姉さん」などの親族名詞、「社長」、「部長」などの地位名詞に限られ、その数はあまり多くない。しかし、実際の日本語を観察し、また日本人向けの本を読んでみると、自分そして相手を指す言葉の数は思っていたほど少なくないということに気づかされる。人称についてのこれまでの研究では、各場面各場面において、どのような呼び方を用いればよいかについてはあまり言及されていない印象を受ける。

* ThS., Khoa tiếng Nhật, Trường Đại học Hà Nội

そのためか、外国人日本語学習者にとって、呼称使用の方法をめぐる諸問題は学習者にとって非常に難解な日本語の文法事項の一つとなっている。

人を指す言葉（以下では人称表現と呼ぶ）の中には「私」「僕」「俺」「あなた」「君」「お前」「彼」などのような「人称代名詞」、「お父さん」「お兄さん」「母」「姉」などの家族関係を指す「親族名詞」、「先生」「お医者さん」「社長」「部長」などの職業及び社会的地位を指す「職業・地位名詞」、「山田」「あっちゃん」「愛子」などの個人の名前を指す「固有名詞」がある。

親族名詞については、さらに、「父」「母」などのように他称詞としての用法しかないものを「親族名詞」と呼び、「お父さん」「お母さん」などのように自称詞、対称詞、他称詞としての用法、そして呼びかけの用法を持つのを「親族呼称詞」と呼び、明確に区別しておく。

人称表現として用いられる名詞は以下のようにまとめることができる。

人称表現として用いられる名詞

- ① 人称代名詞：「私」「僕」「俺」「あなた」「お前」「彼」など
- ② 親族名詞：「父」「兄」「母」「兄」「姉」など
- ③ 族呼称詞：「お父さん」「お母さん」「お兄さん」など¹
- ④ 職業・地位名詞：「先生」「お医者さん」「社長」「部長」など
- ⑤ 固有名詞：「田中」「あっちゃん」「愛子」など

多くの言語の中では、親族呼称詞は家族の中で使用するのみならず、血縁関係のない他人に対しても使用できることが鈴木（1973）、田窪（1997）などによって言及されている。「実際には血縁関係のない他人に対し、親族名称を使って呼びかけることを、人類学では親族名称の虚構的用法（Fictive use）と言っている」（鈴木 1973p.135）。本稿では、家族以外の人に対する虚構的な呼びかけについて、実際に若者が使用している呼びかけを中心に言及したい。

2. 日本語の虚構的な呼びかけ

鈴木（1973）によれば、日本語では、人称代名詞の使用が極度に制限されているという事情から、他人を親族名詞で呼ぶ習慣が特に発達しているという。虚構的用法の一般原則は、話し手が自分自身を原点として、相手がもし家族だとすれば、自分の何に相当するかを考え、その関係にふさわしい親族名詞を選択し、対称詞または自称詞として使用することである。

¹ 厳密に言えば、人称名詞にも「人称呼称詞」とでも呼ぶべき、「僕ちゃん」「俺様」「あなた様」などがあり、「職業・地位名詞」も「お医者さん」「社長さん」などは「職業・地位呼称詞」とでも呼ぶべきだろう。また、固有名詞も「あっちゃん」や「山田君」などは「固有呼称詞」として区別する必要があるかもしれない。

例えば、話し相手との年齢差によって、若い人は老年の男性に対しては「おじいさん」を、中年の男性には「おじさん」を使って呼びかける。また、逆に自分が相手より年上の場合には、自分を「おじちゃん」あるいは「お兄ちゃん」などと自称することもある。

もう一つの問題は、日本では、家族内で、相手を子供から見た親族名詞で呼びかけるということである。つまり、自分の夫に対して、「あなた」等で呼びかけるのではなく、「お父さん」あるいは「パパ」で呼びかけるのである。鈴木(1973)の説明によれば、妻が子供の前で夫のことを「お父さん」とか「パパ」と呼びかけることができるのは、彼女が心理的に子供の立場に同調するからである。彼女は、自分自身の立場から見れば夫でしかあり得ない人物を子供の見地を経由して見直すのであるという。この他に日本語の特徴として鈴木(1973)が「親族名称の子供中心的な使い方」と呼んだ現象がある。田窪(1997)も同様な現象を説明したが、「視点転換」という観点から取り上げた。上の例では、お母さんは子供の視点から夫に呼びかけるのである。しかし、概括的に言えば、これは虚構的な用法の一つであるといえるだろう。

実際の例を観察してみると、日本人は家族外の人に対して呼びかける時、ほとんどその人の名前を呼ばずに、虚構的な呼びかけを用いるかあるいは「すみません」「あのう」などの呼びかけ語を使用して呼ぶのである。以下では、近所の人に対する呼びかけと全く知らない人に対する呼びかけを考察してみる。

2.1 近所の人に対する呼びかけ

近所の人に対しての呼称にも二つの傾向がある。一つは子供の時からの知り合いである場合であり、もう一つはあまり付き合いのない近所の人の場合である。長い付き合いのある近所の人に対しては普通、親族名詞の「おじ」「おば」を用いて呼びかける。例えば「名字+の+おばちゃん」、「名字+の+おっちゃん」(関西弁)あるいは「名字+の+おじさん」である。あまり親しくない近所の人に対して呼びかける時は、「名字+さん」で呼びかける場合もあるが、「すみません」「すいません」のほうが圧倒的に多い。

表 1：近所の人に対する女性の呼びかけ

近所の年上の人	～のおばさん、～のおじさんなど
	～のおばちゃん/～のおじちゃんなど
	名字+さん
	すみません
あまり知らない近所の人	すみません等

2.2 知らない人に対する呼びかけ

全く知らない人に対して呼びかけたい時には、例えば財布を落としたのを見たり、道を聞いたりする場合、普通は「すみません」「あのう」と呼びかけるのが一般的である。特に、ここでは親族呼称詞の虚構的な呼びかけは出てこない。

しかし、相手が子供の場合は、「ねえねえ」「ちょっと」などで呼びかける場合もある。他には、大人が男の子に対して「僕、僕」と呼びかけたりする。

つまり、日本語で家族外の人に対しては親族呼称詞の虚構的な呼びかけを用いるが、実際にあまり知らない人に対してはこの虚構的な呼びかけは使用されず、その代わりに「すみません」「あのう」などの呼びかけ語の方が圧倒的に使用されるということが分かった。

2.3 特別な仕事をする人への呼びかけ

日本では、あまり知らない人に対しては呼びかけ語を使って呼びかけるのは上に述べたが、「教師」「医師」「弁護士」「評論家」などの特別な仕事をする人に対しては「先生」という職業・地位名詞をよく使用するという。森岡（1973）では、『先生』というのとはもともと教師という職業名だと思われるが、代議士、弁護士、医師、評論家、芸術家、芸能人にまで広げて用いるようになったのは、適当な用語が不足しているためであろう。また、最近では、身元職業の不明の人に対して、「お宅」ということばが用いられるが、これが「あなた」というのもなれなれしくて失礼だし、かといって身分・職業も不明で困惑したあげくの苦肉の策であろう。」(p.222)と指摘している。実際に日本人に対する調査結果を見ると、教師に対しては言うまでもなく、医師に対しても「先生」と呼びかけることが判明した。

つまり、家族外の人に対して、日本語では、親族呼称詞で呼びけることはできるが、実際にはこの虚構的な呼びかけはあまり一般的ではなく、職業・地位名詞あるいは「すみません」「あのう」などの呼びかけ語を使うのが普通である。

3. ベトナム語の虚構的な呼びかけの用法

日本語の場合、「父」「母」などのように呼びかけに使用できない本来の親族名詞と「お父さん」「お母さん」などのように呼びかけに使用できる親族呼称詞の2つの区別があるが、ベトナム語の場合は、親族名詞はそのまま呼称に使用できるため、まとめて親族名詞と呼ぶことができる。

ベトナム語では、虚構的な呼びかけの用法が非常に発達している。虚構的用法の一般原則は、話し手が自分自身を原点として、相手がもし家族だとすれば、自分の何に相当するかを考え、その関係にふさわしい親族呼称詞を対称詞または自称詞として使用する。

例えば、話し相手との年齢差によって、若い人は老年の女性に対しては“bà” (祖母)で、中年の女性は“cô” (叔母) と呼びかける。自分よりあまり年が離れてなければ“chị” (姉) と呼びかけする。もし、話し相手が年下だったら“em” (妹/弟) で呼ぶことができる。また、女性の場合、自分が相手より年上だったら、その年齢差によって、自分を“cô” (叔母) あるいは“chị” (姉) などと自称したりする。

しかし、ホアン・アイン・ティー(2002)では、「日越両国の言語体系は、ともにこの呼称の原則を有しているが、実際の使用場面での距離感には大きな相違がある。」(p.91) と指摘している。具体的にいえば、ベトナム語では、この虚構的な呼びかけの中心に自分のグループ内にいる人物が想定されていて、相手が自分のグループ、すなわち自分の家族に入るようなかたちで、親しく感じられるように呼称する。例えば、例 (1) のように、話し手は自分の子供から見た呼びかけを使って、話しかける。

- (1) Chú ngủ chưa? Chuyện tôi vậy đó, chú nghe có được không? Chú là người đầu tiên tôi kể cho nghe, đừng có về quê, hỏi thử giùm tôi coi cô Mua bây giờ ra sao?

(Hoàng Đình Quang. *Những người thợ nạn*)

【訳】君(叔父)、もう寝た。私の話はそんな話だよ、君(叔父)はどう思う。君(叔父)は私の話を初めて聞いた人だよ。故郷に帰ったら、ムアさんは今どうなんだと聞いてもらえるかい。

その一方、日本人は、自分とは全く関係のない相手のグループに属する人物として捉えて呼称している。例えば、例 (2) のように学校の先生が相手の家族の子供の立場に立って、話し相手を「お父さん」と呼んでいる。このような呼びかけはベトナム語では使用しない。

- (2) どうしてこんなことになってしまったのか、万引きのことといい、不思議でならないんです。お父さんのほうになにか思いあたることがあって紀子君の悩みを取り除けるなら、そうしてあげてほしいですね。

(高木良『巨大証券』1998、p.332)

つまり、ベトナム語の虚構的な呼びかけにおいては、親族呼称詞は全く知らない人にも虚構的な呼びかけの用法として使用できるが、日本では、必要な場合には、話し相手のグループの人の呼びかけにも使用できるが、ベトナムではそれが使用されない。また、ベトナム語では「すみません」「あのう」などのような呼びかけ語を使用せず、誰に対しても虚構的な呼びかけを使用する。以下は、家族外の年上の人と年下の人への呼称についての考察である。

3.1 家族外の年上の人への呼称

表 2：ベトナム語の家族外の年上の人への呼称

自分より 1～15 歳ぐらい年上の人	男性	anh (兄)、anh+tên (名前+兄)
	女性	chị (姉)、chị+tên (名前+姉)
自分より 15 歳以上年上の人	男性	chú (叔父)、chú+tên (名前+叔父)
	女性	cô (叔母)、cô+tên (名前+叔母)
自分の父母より年上と思われる人	男性	bác (伯母/伯父)、bác+tên (名前+伯母/伯父)
	女性	

ベトナム語の呼称は「家族化」の傾向がある。知らない人に対しても家族で使う親族名詞を使用できる。相手の年齢を判断してから、親族名詞を選択する。インタビューした結果からその呼びかけが明らかになった。ほぼ 1～15 歳ぐらいの年齢差で呼びかけが決定されている。自分より 15 歳以上年上の男性に対しては“chú”（叔父）、女性に対しては“cô”（叔母）と呼ぶ。

(3) Cô ơi, làm ơn cho cháu hỏi đường đến Trường Đại học Hà Nội được không ạ?

【訳】おばさん(叔母)、ハノイ大学までの道を教えてくださいませんか。

それより年齢差が少ないと思われる人に対しては“anh”（兄）あるいは“chị”（姉）と呼ぶ。そして、自分の親の年齢よりも年上だと判断すれば、“bác”（伯父/伯母）と呼ぶ。但し、15 歳の年齢差ではなく、自分より 20 歳以上の年齢差で呼びかけを決めると答えた。または自分の兄弟の年齢と比較して呼びかける場合もあるという人もいた。

(4) Anh ơi, làm ơn cho em hỏi một chút?

【訳】お兄さん(兄)、ちょっと聞いてもよろしいですか。

つまり、ベトナム語では「家族化」の傾向があるため、知らない人でも親族名詞で呼びかけることが出来る。外見から相手の年齢を判断して親族名詞を選択するのが特徴である。また、相手に対する呼びかけについては性別をはっきり区別するが、自分を指す言葉についてはは男性も女性も同じ言葉を使用するのが特徴である。

3.2 年下の人に対する呼びかけ

年下の人に対しては、上と同じのように 15 歳ぐらい年下の人を“cháu”（甥/姪）と呼ぶ。それより上の年下の人には“em”（妹/弟）と呼ぶ。しかしながら、15 歳の年齢差を基準とせず、自分の甥・姪の年齢と比較して呼びかける人もい

る。ところで、3.1 の表で見た年上の人に対する呼びかけと全く反対に、年下の人に対する呼びかけでは、相手に対する呼びかけは性別の区別がないが、自分を指す言葉ははっきり性別の区別がある。具体的に言うと男性は年下の人に対して、自分を指す時、“anh”（あに）あるいは“chú”（おじ）を使用するが、女性は“chị”（あね）あるいは“cô”（おば）を使用する。

表 3：家族外の年下の人への呼称

自分より 1 歳～15 歳ぐらい年下の人	em (弟/妹)
それより若い人	cháu (甥/姪)

3.3 特別な仕事をする人に対する呼びかけ

3.3.1 先生に対する呼びかけ

基本的に男性の先生には“thầy”（元は名詞で「父」それ以前は「教師」）、女性の先生には“cô”（元は親族名詞で「父の妹」）と呼びかける。男性も女性も“em”（弟/妹）で自称する。場合によっては、先生の名前を加えた呼びかけもあるが、一般的ではない。なお、学生の間では、先生にあだ名をつけることもあるが、そのあだ名は学生の間しか使用されず、先生の前では絶対に使わない。

3.3.2 お医者さんに対する呼びかけ

日本と異なり、ベトナムでは全ての場面で呼称は「家族化」の傾向があり、お医者さんに対して呼びかける時も例外ではない。医者 of 年齢を判断してから呼称詞を選択するのが普通である。今回は若者を中心として、呼び方を調査したため、仕事をしている人（ここでは医者）に対しては常に年上の人に対する敬意を含んだ呼びかけを使用している。親族名詞で呼称するが、ほぼ 15 歳ぐらいの年齢差で相手と自分を指す言葉を選択する。同年代から 15 歳ぐらい年上のお医者さんに対しては“anh”（兄）あるいは“chị”（姉）で呼び、それ以上のお医者さんに対しては“chú”（叔父）あるいは“cô”（叔母）で呼びかける。

更に、年上のお医者さんに対しては“bác sỹ”（医者）の職業・地位名詞で呼びかけるともあるが、若いお医者さんに対しては“anh”（兄）、“chị”（姉）と呼びかけるといふ人もいた。

つまり、日本語と異なり、ベトナム語では虚構的な呼びかけが非常に発達していて、日常生活では、他の人称表現より圧倒的に使用される傾向がある。こ

れは、ベトナム語の文法の特徴からも文化の特徴からも影響を受けているようである。ベトナム語の文法では、動作主 (Agent) は文の中の必須の要素であるため、呼びかけの時には常に動作主を表示しなければならない。動作主がない文章は文法的に正しくなく、社会の礼儀の面からも、失礼な言い方になる。文化の面では、誰でも家族のメンバーのように待遇し、敬老の社会の象徴でもある。

4. 終わりに

以上で日本語とベトナム語の虚構的な呼びかけを考察してみた。家族外の人に対して呼びかける時には、日本語では、親族呼称詞を使用して呼びかける場合があるが、名前を知っているなら名前で呼び、親疎の度合いまたは場面によって「さん」「ちゃん」「君」などを付けて呼びかけるのが多い。そして、あまり知らない人などに対しては「すみません」「あのう」などの呼びかけ語を使用するのが一般的である。一方、ベトナム語では、人に呼びかける時、「家族化」の傾向がある。つまり、虚構的な呼びかけが非常に発達している。話し相手の外見を見て、年齢を判断してから適切な親族名詞を選択し、呼びかけるのが一般的である。

日越両言語の虚構的な呼びかけにおける類似点と相違点から、日本語及びベトナム語の教育においては、いくつかの注意点がある。日本語では、呼びかけに関して非常に簡単に「すみません」「あのう」などと呼びかけることができるが、ベトナム語では、十分に相手の年齢、性別など注意していなければならない。そのためには、ベトナム語の親族名詞のシステム及びベトナムの呼ぶ習慣を身につける必要があると思う。

しかしながら、今回は、日本人とベトナム人の若者に限り、その呼称法を対照するのみであった。調査対象を他の年代の人にも拡大すると同時に、これらの年代の人々の人称表現やその変遷、さらには方言差などについても調べる必要があると思う。今後の課題としたい。

参考文献

日本語：

- 金丸芙美 (1999) 「人称代名詞・呼称」『日本語学』12 - 6 明治書院
- 川原潮子 (2003) 「言語と人称表現」『コミュニケーション科学』18、pp17-39 東京経済大学
コミュニケーション学会コミュニケーション科学編集委員会
- 金水敏 (1992) 「代名詞と人称」『講座日本語と日本語教育 4』pp98 - 116 明治書院
- 鈴木孝夫 (1973) 『ことばと文化 私の言語学』岩波書店
- _____ (1996) 『教養としての言語学』岩波書店
- 滝浦真人 (2007) 「呼称のポライトネスー “人を呼ぶこと” の語用論」『月間言語』36 - 12、

pp32 - 39 修館書店

田窪行則 (1997) 「日本語の人称表現」田窪行則編『視点と言語行動』pp13-44 くろしお出版

田原洋樹 (2000) 「ベトナム語の呼称 *ngươi ta* に関する一考察ー「ひと」との比較中心にー」

『ポリグロシア 3』pp91-97 言語教育センター立命館アジア太平洋大学

富田健次 (1988) 『ベトナム語の基礎知識』大学書林

_____ (2001) 『ベトナム語 はじめの一步まえ』株式会社 DHC

長谷川禮子 (1988) 「日本語における呼びかけ語の使われかたー配偶者を直接呼びことばについてー」『洗足論業 17』pp1-15 洗足学園

_____ (1989) 「日本語における呼びかけ語の使われかた (2)ー知らない人に対する呼びかけと親族名称の使用について」『洗足論業 18』pp1-9 洗足学園

_____ (1990) 「日本語の呼びかけことば(3)ー対称詞」『洗足論業 19』pp1-7 洗足学園

_____ (1991) 「日本語における呼びかけ語の使われかた (4)ー配偶者の三人称についてー」『洗足論業 20』pp1-16 洗足学園

ホアン・アイン・ティー (2002) 「人称代名詞の方法を手がかりとした日越文化比較研究」

『神田 外国語大学紀要 3』75-96 神田外国語大学

三輪正 (2000) 『人称詞と敬語』人文書院

ベトナム語：

Diệp Quang Ban. *Ngữ pháp tiếng Việt phổ thông*. Tập 1. Nxb Đại học và Giáo dục chuyên nghiệp, Hà Nội, 1989

Hoàng Anh Thi. *Vài điểm so sánh điểm khác biệt giữa văn hoá Nhật Bản và văn hoá Việt Nam thể hiện trong ngôn ngữ giao tiếp*. Ngữ học trẻ 96, Hà Nội.

Lê Biên. *Từ loại tiếng Việt hiện đại*. Nxb Giáo dục, 1999.

Nguyễn Kim Thân. *Nghiên cứu về ngữ pháp tiếng Việt*. Tập 1. Nxb Khoa học, Hà Nội, 1963.

Nguyễn Ngọc Ân. *Dùng đúng từ xưng gọi với người dạy học*. Ngôn ngữ và đời sống. Số 8 (82), 2002.

Nguyễn Tuấn Kiệt. *Bàn về nghĩa của từ chỉ ngôi*. Ngôn ngữ và đời sống. Số 8 (82), 2002.

Nguyễn Văn Chiến. *Ngôn ngữ học đối chiếu và đối chiếu các ngôn ngữ Đông Nam Á*. Đại học sư phạm Ngoại ngữ, Hà Nội, 1992.

Nguyễn Văn Khang (chủ biên). *Ứng xử ngôn ngữ trong giao tiếp gia đình người Việt*. Nxb Văn hoá thông tin, 1996.

Trần Ngọc Thêm. *Cơ sở văn hoá Việt Nam*. Nxb Giáo dục, Hà Nội, 1999.